

世界史 授業 No.104 テーマQ.&A.プリント

1. 今日のテーマ・クエスチョン

19世紀前半の英の自由主義改革とは？

2. テーマ・アンサーのキーワードをピックアップ

※教科書該当ページ（P. 162）の中から見つけよう！

産業革命が進展したイギリスでは、独自の自由主義的改革がすすめられ、1828年に（ 1 ）が廃止され、翌年にはカトリック教徒解放法が成立して、国教徒以外でも公職につけるようになった。

また、選挙制度が産業革命後の社会の現実にあわなくなったため、選挙法改正を求める運動が激しくなり、1832年に第1回（ 2 ）が実現した。これにより選挙区が再編され、あらたに産業資本家などの中流階級が参政権をえた。しかし、参政権を獲得できなかった労働者は、1830年代後半から、（ 3 ）をかかげて男性普通選挙の実施などを要求する（ 4 ）を展開した。

さらに、産業革命によって圧倒的な工業力をもつようになったイギリスは、貿易面において、1846年に（ 5 ）を、49年には（ 6 ）を廃止して、産業資本家の求める自由貿易政策を実現した。

<記入欄>

- 1 () 2 () 3 ()
4 () 5 () 6 ()

3. 今日のテーマ・アンサー（テーマ・クエスチョンの答）確認

※今日のノートに取った内容や2.でピックアップしたキーワードを参考にしよう。

T. Q. 「19世紀前半の英の自由主義改革とは？」

T. A.

1828年に[①]法が廃止された翌年[②]法が成立し、宗教に関係なく公職に就けるようになった。また第1回選挙法改正で選挙資格が[③]に拡大されるとともに腐敗選挙区が廃止された。経済面ではそれまで地主を保護していた穀物法の廃止で[④]の輸入が自由化され、[⑤]も廃止されて[③]の求める自由貿易が実現した。

<記入欄>

- ① [] ② [] ③ []
④ [] ⑤ []

[] 年 [] H No. [] 氏名 []